

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.52

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

日本英学史学会中国・四国支部 山口研究例会のご案内

拝啓

紅葉の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために多大なるご支援ならびにご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

本年度第2回(通算第57回)研究例会を、来る12月8日(土)に山口大学(山口市)にて開催する運びとなりましたので、ここにご案内を申し上げます。開催準備にあたりましては、会員の金田道和先生、理事の上杉進先生、そして会場校山口大学の関係者の方々に格別のご配慮を賜りました。篤くお礼申し上げます。

今回の研究例会では、能登原昭夫先生、保坂芳男先生、村端五郎先生による研究発表が予定されています。ご多忙中とは存じますが、会員の皆様にはぜひ山口の地にご参集いただきますようご案内申し上げます。

特に今回は、研究例会のあとに、忘年懇親会を企画いたしております。こちらの方へも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

末筆ながら、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会中国・四国支部

支部長 竹中龍範

日本英学史学会中国・四国支部
平成19年度第2回(通算57回)
研究例会プログラム

日時：平成18年12月8日(土)
12時30分受付開始

場所：山口大学教育学部
C棟2F 24番教室
〒753-8513 山口市吉田1677-1
TEL: 083-933-5300

受付(12:30-)

開会行事(13:00-13:10)
支部長挨拶

研究発表(13:10-14:10)
能登原昭夫
「岡山英学史から見た岸田吟香」
(休憩 14:10-14:20)

研究発表(14:20-15:20)
保坂芳男
「岩国英国語学所の生徒たちの進路に関して
教師ステーブンスの影響に焦点をあてて」
(休憩 15:20-15:30)

研究発表(15:30-16:30)
村端五郎
「Appleはリンゴ(林檎)に非ず 英和辞書
におけるApple訳語の変遷について」

閉会行事(16:30-16:50)
副支部長挨拶
写真撮影
(後片付け・移動)

懇親忘年会(18:00-20:00)
会場：居酒屋坂田山口店
(湯田温泉6-156-1 TEL.083-932-3610)
会費：5,000円

交通案内

(以下のアクセス情報、および案内図は山口大学
ウェブサイト <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>より)

1) 新幹線新山口駅、JR山陽本線新山口駅からJR
山口線「湯田温泉駅」下車。湯田温泉駅入口バス停
(*1)からJRバス山口大学行「山口大学」下車。

2) 新山口駅前(在来線口)から防長バス「県庁前行
(八方原・平川・山口大学・西京橋・日赤経由)」に
乗り「山口大学前」下車。

3) 新山口駅前(在来線口)から防長バス「井開田行」
「県庁前行(市民会館・西京橋・日赤前経由)」
「スポーツの森行(湯田温泉経由)」に乗り「湯田温泉
(*2)」下車。防長バス「新山口駅行(山口大・南
本町経由、リハビリ・八方原経由)」
「リハビリ病院行」に乗り換え「山口大学前」下車。

4) 新山口駅前(新幹線口)からJRバス「東萩行(特
急)」に乗り「湯田温泉通(*3)」下車。JRバス「山
口大学行」に乗り換え「山口大学」下車。

5) 山口宇部空港到着便に合わせ宇部市営バスで新
山口駅新幹線口へ約30分。

6) 中国自動車道小郡ICを降りて国道9号線を山口
方面へ約11km車で15分。

7) 中国自動車道山口ICを降りて県道山口・防府線
を湯田温泉方面へ約7.5km車で12分。

8) 徒歩の場合、湯田温泉バス停から約35分、JR
湯田温泉駅から約25分。

<ニューズレター編集部注>

*1 湯田温泉入口バス停は、湯田温泉駅から約200メ
ートル

*2 湯田温泉バス停は、湯田温泉駅から約500メー
トル

*3 湯田温泉通バス停は、JRバスでの名称。場所は湯
田温泉バス停と同じ。

広島バスセンター～湯田温泉間的高速バスもありま
す。(防長交通 0834-22-7824)

会場周辺案内図

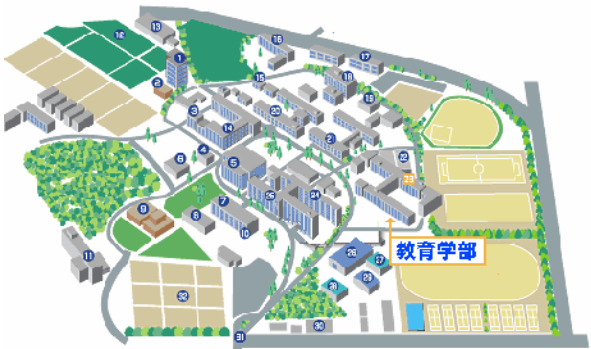


以下の案内図は山口大学教育学部のウェブサイト (<http://www.edu.yamaguchi-u.ac.jp/>) より

会場周辺案内図



山口大学案内図



正門(北側)

例会終了後の懇親会は、湯田温泉街近くの居酒屋で行います。当日の宿泊をご希望の方は、各自での手配をお願いします。

以下、湯田温泉旅館協同組合のサイトより、ホテルタイプの宿の連絡先を掲載します。
(<http://www.axis.or.jp/~yuda/>)

ホテルニュータナカ	TEL(083)923-1313
プラザホテル寿	TEL(083)922-3800
ビジネスホテル富士の家	TEL(083)922-0536
ホテル喜良久	TEL(083)922-0333
ビジネスホテルうえの	TEL(083)922-6600
ビジネスホテルニューかめ福	TEL(083)924-7000
ビジネスホテル菊泉	TEL(083)922-1545

そのほかのビジネスホテル
スーパーホテル山口湯田温泉 TEL(083)921-9000

公共の宿	
防長苑(市町村)	TEL(083)922-3555
KKR山口あさくら	TEL(083)922-3268
セントコア山口(公立学校)	TEL(083)922-0811

そのほか、宿泊施設の問い合わせ先
湯田温泉旅館協同組合 Tel(083)920-3000

翌日の12月9日(日)は特に学会行事はありませんが、湯田温泉街には中原中也記念館、山口市内には瑠璃光寺五重塔(国宝)やザビエル記念聖堂など、歴史や英学にゆかりの場所もありますので、ご自由に散策をお楽しみください。

- 交通や観光案内の関連サイト
- ・山口小郡交通案内
<http://homepage1.nifty.com/takechi/>
 - ・防長交通
<http://www.bochobus.co.jp/>

<お願い>
研究例会ならびに忘年懇親会のご出欠を、以下のいずれかの方法で11月21日(水)までにお知らせください。

- (1)電子メール (umamoto@pu-hiroshima.ac.jp)
- (2)別紙の申込用紙をファックス(0824-74-1725)もしくは郵送(送り先は用紙にあります)

理事・会計監査の皆様には、理事会のご案内を同封しております(当日11:00~)。こちらのご出欠も合わせてお知らせください。

中国・四国支部ニュース

佐光昭二先生に豊田賞

日本英学史学会第44回全国大会において、今年度の学会賞「豊田賞」が発表されました。受賞者は、佐光昭二(『阿波洋学史の研究』)、江利川春雄(『近代日本の英語科教育史』)の二名でした。

中国・四国支部の佐光昭二先生が受賞なさいましたことは、我が支部にとって大変喜ばしいことです。心よりお祝い申し上げます。

佐光昭二著『阿波洋学史の研究』
(徳島県教育印刷・2007年・10,000円)

新資料を網羅!

阿波先覚の人と功業

海外に医学論文を発表した美馬順三、北方民族語研究の先駆 岡本監輔など

日蘭学会・日本英学史学会・洋学史研究会会員の著者が昭和58年発刊の徳島市民双書第17集を大幅に増補・改訂した35年に及ぶ研究の集大成。

徳島県教育印刷(株)ウェブサイトより

<http://kyouiku-insatsu.co.jp/>

Tel.088-664-6776

『英学史論叢』第11号原稿募集

中国・四国支部研究紀要『英学史論叢』第11号の刊行に向けて、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、多数のご応募をお願いいたします。

・ご投稿に際しては、次の「執筆要領」「標準書式」に従ってください。

・事務の都合上、投稿予定の方は「投稿申込」をお願いします。平成20年1月31日(木)までに事務局へメール(umamoto@pu-hiroshima.ac.jp)またはFAX(0824-74-1725)にてお申し込みください。

・原稿提出の締切は平成20年2月20日(水)(消印有効)です。事務局まで郵送してください。

・研究論考・研究ノートへのご投稿は、正副計3部をお送りください。英学史随想、書評等の原稿は1部お送りください。

『英学史論叢』執筆要領

・『英学史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。

・研究論考・研究ノート、その他のものとも、原則として提出されたものをそのまま複写印刷するものとする。手書き、タイプライターやワープロによる印刷など、いずれも標準書式に従った完全原稿を提出するものとし、執筆者による校正は行わない。用紙は白紙を用いるものとし、原稿用紙等罫線のはいたものは受理しないことがある。

・研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および年次大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出し、編集委員会の査読を経て掲載の可否、書き直し等を決定するものとする。なお、編集委員会は必要に応じて編集委員以外の会員に査読を委嘱することができる。

・研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。

・掲載決定後の最終原稿はプリントアウトしたものと合わせ、電子媒体によるデジタルデータを提出することを原則とする。

・研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。

・その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿および事務局・編集部への執筆依頼によるものとする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等、いずれも原則として2ページ以内とする。

『英学史論叢』標準書式

- ・用紙はB5判白紙を用い、上部に25mm、下部および左右に20mm、それぞれ余白をとる。
- ・本文は、10ポイントないし10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。
- ・本文第1ページに8行分をとって論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは4倍角文字ないし18~20ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。なお、論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。
- ・本文中の見出しについては1行アキとし、番号を付して太字、あるいはゴシック体とするか、下線を施して見やすくする。
- ・注は、脚注、尾注のいずれも可とするが、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
- ・参考文献、引用文献は論文末に一括して示す。
- ・英字・数字はすべて半角文字とする。

事務局より

会費の納入について

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円、学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしく申し上げます。

(口座番号) 01360-9-43877
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター原稿募集

英学史にまつわる「エッセイ」「研究メモ」「読書ノート」などの原稿をお寄せください。いずれも400~800字程度。電子メールまたはワープロ印字原稿を事務局までお送りください。次号以降のニューズレターに掲載させていただきます。

皆様の研究情報をお寄せください

会員の皆様の英学史に関する新刊、発表論文、講演、研究発表、市民講座、雑誌記事などの情報をお寄せください。ニューズレターでの紹介とともに、今後の研究例会企画の参考にさせていただきます。

ニューズレター広告の募集

ニューズレター1ページ(A4)の4分の1サイズの広告を募集します。ご自身の著書等、英学史に関わる広告を奮ってお寄せください。広告料は4号分のニューズレター掲載で5,000円です。なお、本ニューズレターは、毎号印刷版80部を発行しています。また、ウェブサイト上で広く世界に公開しています。

英学史全国ニュース

日本英学史学会第44回全国大会

10月20日(土)~10月22日(月) 桃山学院大学において全国大会が開催されました。本支部所属会員の研究発表は以下の通り。

・松村幹男氏

『英学月報』について

昭和戦後期英語教育史寸描

・馬本勉氏

広島中學校『英語之基礎』における語彙選定

『英学史研究』第40号

今年度の学会紀要が発行されました(10月1日)、本支部所属会員の論文は以下の通り。

・竹中龍範氏

J. M. Dixonの英熟語辞典をめぐる

(p.23~p.36)

日本英学史学会報 No.113

年に3回発行されている学会報 No.113が発行されました(9月1日)

・<英学史手帖>の欄において、佐光昭二氏『阿波洋学史の研究』の書評が掲載されています(評者は向井晃氏)

・中国・四国支部の研究例会報告、『英学史論叢』第10号目次などが掲載されています。

日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費5,000円)。問い合わせは事務局まで。

広島英学史の周辺(18)

会員の中村朋子先生(広島国際大学)より、9月22日に実施されたイベントについて連絡を頂きました。大学主催のシニア・サマーカレッジの一環として「日本人はどのように英語を学んできたか」と題する講座を担当されたそうです。講座とともに「明治以降に日本で使われた英語教科書を手に取りながらその変遷を見る」という企画展示が行われ、中村先生が国内の古書店で集められたナショナルリーダー、神田や津田のリーダー、ジャック・アンド・ベティなど、明治期から昭和期までの教科書を見るために20代から70歳近い人まで20名ほどの参加があったそうです。歴史上の教科書をジェンダーや文法の視点から分析する中村先生の研究紹介の後、参加者に、教科書を手にとった感想を声に出して周りの人と話してもらったところ、次のような声が挙がったそうです。

- ・昔は難しいことをやっていたものだ
- ・情報量が多くて、勉強になる。
- ・現代の英語教科書の問題点が良く分かった
- ・独習書の呼び名。「これは教科書ガイド?」「私たちの時には三文といっていた」
- ・この番号は何?日本語の語順だ!(独習書を見て)
- ・日本語訳の意味がわからないよ。
- ・日本の英語教科書の文法統制は、第二言語習得の研究の発達とも関係があるのでは(日本語教師の声)



教科書展示の一コマ

「参加者の皆さんに喜んでいただき、手ごたえがあった」と中村先生。次の企画を考えていらっしゃるそうなので、楽しみに待ちたいと思います。

香川大学図書館では、一般公開行事・神原文庫資料展「西洋語まなび事始め」を開催中です(高松市幸町1-1 香川大学図書館3階 神原文庫展示室。10月28日(日)~11月4日(日)9:00~17:30)、11月3日(土)には、「日本人はいかに英語を学んだか 幕末・明治初期のようす」と題する講演が行われます(講演者は竹中龍範教授。14時~15時。入場無料) 問い合わせは香川大学図書館情報サービス担当まで(TEL 087-832-1249 FAX 087-832-1257

E-mail: libsabis@ao.kagawa-u.ac.jp、香川大学図書館ホームページ <http://www.lib.kagawa-u.ac.jp/>

風呂鞆先生より『八雲』19号(焼津市小泉八雲顕彰会)を頂きました。「大谷繞石の『滞英二年・案山子日記』」「高木大幹先生を回想して」の二編の論考を寄せていらっしゃいます。ハーンの弟子や研究者など広範な研究対象へ向け、風呂先生は常に温かい眼差しを注がれつつ、精緻な論考を重ねていらっしゃいます。

関連学会の研究例会が広島で開催されます。日本英語教育史学会の11月例会は、11月18日(日)午後2時より、広島市まちづくり市民交流プラザ(広島市中区袋町6-36 TEL: 082-545-3911)で開催されます。研究発表は西 忠温氏(元 崇城大学)「ある明治期高等小学校英語科教師の学習歴と履歴 五高教務掛雇・古閑留彦の場合」、安部規子氏(有明工業高等専門学校)「福岡県立中学修猷館一覧について」の2本。参加無料。問い合わせは日本英語教育史学会事務局まで。

(和歌山大学教育学部 江利川研究室 TEL&FAX 073-457-7433 erikawa@center.wakayama-u.ac.jp)

日本英学史学会会員の東 博通先生(名城大学)より、このほど出版された『北の街の英語教師 浜林生之助の生涯』(開拓社、2007年)をお送りいただきました。浜林生之助は広島高師に学び(7期生)後に小樽高商教授。伝記に掲載された高師在学中の成績表や、授業中に浜林が訳した箇所には教師の訂正が入らなかったというエピソードなど、初期の頃の広島高師の様子をうかがうことができます。浜林より1歳若く、高師入学は1年早い世良壽男(後に大谷大学哲学教授)のことは、この欄や『英学史論叢』でも触れたことがあります。そのときに資料のことでお世話になった大谷大学を訪ねました。世良教授在職当時のことを調べてくださった職員の方と、教え子で同大学名誉教授の先生のお話を伺う機会に恵まれ、感激でした。こうした素晴らしい出会いは、英学史研究を続けるモチベーションを一層高めてくれます。 あっという間に深まる秋。12月は山口でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.52

2007年10月30日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部